

新成人の皆さんに「将来の夢」と
「両親へのメッセージ」を聞きました



加藤 拓生さん 瀬尾 光平さん



足利 凌久さん 久保 翔汰さん



中村 美羽子さん 納田 幸さん



谷口 円香さん 三澤 静紅さん
小椋 夏葵さん 石田 成美さん 佐藤 優衣さん



福家 星さん 島下 明日登さん



大西 漠さん 小塚 大樹さん

成人記念式典「はたちのつどい」 ふるさとの桜が 門出を祝う

延期を乗り越えて開催
春の成人式

俱知安町の成人を祝う式典「はたちのつどい」(教育委員会主催)が5月3日(月)、文化福祉センター大ホールで開催されました。式典は、今年1月に行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で4カ月遅れの開催となりました。

式の対象者には事前にPCR検査キットを郵送、検査をして低リスクの結果を確認できた人のみの参加としました。当日はマスクの着用や検温をはじめ、ホール内の換気、出席者の人数制限、間隔をあけて着席するなどの対策を徹底しました。

規模を縮小して開催された式典でしたが、新成人たちは、それぞれに夢や希望を抱きながら、新たな一歩を踏み出しました。

たくさんのメッセージで
新成人の門出を祝福

今年の「はたちのつどい」は平成12年4月2日から平成13年4月1日までの間に生まれた町内在住者および町内出身者が対象で、当日は78名の新成人が出席し、振り袖やスーツに身を包み、久しぶりに会う友人らとの再会を楽しみました。

式典には文字町長や村井教育長らが参列し、新成人の門出を祝福しました。

式典の後半、新成人たちの小中学校時代の写真や恩師からのメッセージを集めた「思い出アルバム」の映像が映し出されると、会場からは笑い声が聞こえ、涙に涙ぐむ新成人の姿も見られるなど、例年とは違う雰囲気で開催された5月の成人式は、笑顔と感動に包まれながら幕を閉じました。

今はまだ、大変な世の中で不自由なことがたくさんありますが、いつかこんなこともあったなと笑って話せる未来に向け、大人として、社会人として強く生きていきます。私たちは、それぞれ違う道を進んでいきますが、ふるさとが俱知安だということに誇りを持って、それぞれの未来へ向かって突き進んでいきます。私たちは私たちらしく、自分の道を歩み続けることを誓います。

足利 凌久さん

お礼の言葉より

「大人である」という自覚をもって社会に胸を張っていけるように、これからも日々、努力を積み重ねていくことを誓います。

この極寒の豪雪の地で生まれ育った私たちは、自らの行動に責任を持ち、どのような環境でも忍耐強く生き抜いていくことを誓います。

また、目の前の一人を幸せにできるように躍動していくことを誓います。

まるで可憐に咲く芝桜のように…

20歳の誓いより

網野 一華さん

成人記念式典「はたちのつどい」
ふるさとの桜が門出を祝う



久保翔汰さん

どんな時も
頼られる人に

俱知安町で学生時代を過ごし、現在、陸上自衛隊俱知安駐屯地で自衛官として働く久保翔汰さんに話を聞きました。

——今の職業を選んだ理由は？

「自衛官である父と姉の姿を見て、カッコいいと感じ、自分も自衛官になりたいと思いました。はじめは心配していた母も、最終的には『行きたい道に進みなさい』と背中を押してくれました」

——5月の成人式に思うことは？

「人生に一度のことなので、いつか開催してほしいとは思っていました。このような機会がないと会えない友人もいるので、開催できてうれしかったです」

——社会人になって変わったことは？

「元々、人前に出ることが得意ではありませんでしたが、社会人になり、人話すことへの不安がなくなりました。また、仕事でも日々の生活でも、責任感を持って行動することを心がけています」

——今後どんな大人になりたい？

「先輩ができたので、どんな時でも頼られるような人になりたいです。社会人として常に責任感を持って仕事をするのが目標です」

——いま、家族に伝えたいことは？

「20年間育ててもらって、両親には迷惑もかけてきました。これからは感謝を忘れない、少しずつ恩返しをしていきたいです」



例年であれば1月に行われる成人式、延期が決まったときは落ち込んだことと思います。また、今回の式でも、帰省を自粛して出席を見送った方や、都合が合わず出席できなかった方もいたと思います。

ただ、この経験は、皆さんのこれからの人生に必ず生きてくるはずです。さまざまな思いを経験した新成人の皆さんなら、この先のどんな困難も乗り越えられるでしょう。

どうか、令和3年5月3日、この日のことを忘れずに、これからの人生を歩んでください。皆さんがいつでも帰って来られる「ふるさと」として、私たちはこれからも皆さんを応援しています。

最後に、新成人のご両親やご親族の皆さんも、この日を迎えられるようにしたのではないでしようか。これからも新成人の皆さんのかけがえない味方であり続け、あたたかく見守ってあげてください。

新成人の皆さん、この度は誠におめでとうございました。



成人を迎えたお二人に
今後の目標や家族への思いなどを聞きました

支えてくれた両親に
恩返しを



石田成美さん

俱知安町で高校までを過ごし、専門学校を卒業した後、現在は札幌市の美容院で美容師として働く石田成美さんに話を聞きました。

——今の職業を選んだ理由は？

「美容師になることは幼稚園の頃からの夢でした。昔からヘアアレンジが好きだったので、美容師を目指すようになり、今年、その夢が叶いました」

——5月の成人式に思うことは？

「一度延期になったときは悲しかったですが、中止になる町もある中で、開催できたことはうれしいし、感謝しています。できれば、

お世話になった先生方にも会いたかったです」

——社会人になって変わったことは？

「生活リズムなど、すべてが変わりました。接客業なので、初対面の人とも緊張せずに話せるようになり、成長したと感じます」

——20歳を迎えて挑戦してみたいことは？

「今はアシスタントとして働いているので、できるだけ早くデビューしたいです。そしていつか、専門学校時代の友人と一緒に美容院を開きたいと思っています。縁があれば俱知安町でも美容師として働いてみたいです」

——いま、家族に伝えたいことは？

「両親は仕事のことなどをいつも気にかけてくれます。離れて住むようになってから家事の大変さなどに気付き、両親のありがたみを実感しました。これからは、一社会人として言動に気を付けて、今できることの恩返しがしたいです」